

【事例紹介】

関西初のインド式教育国際学校  
『チャンドラ・セカール・アカデミー・  
インターナショナルスクール京都校』の開校について  
-インド・オディシャ州プリー『CHANDRA SEKHAR ACADEMY』の姉妹校-  
Chandra Sekhar Academy International School, Kyoto  
「First ever Indian Based English Medium School in Kansai, Kyoto,  
Japan.」 Spells Brief Why This School Opened:  
Has It's Parents-Wing 'Chandra Sekhar Academy' at Puri in Odisha, India

特定非営利活動法人インド日本友の会理事長

チャンドラ・セカール・アカデミー・インターナショナルスクール京都校理事長

クナ・ダッシュ

Kunna Dash

(President, India Japan Friendship Center, Japan/

President, Chandra Sekhar Academy International School, Kyoto)

キーワード：インド式教育、CBSE カリキュラム、インターナショナルスクール、京都、多文化共生

1. 関西初となるインド式教育国際学校創立について

2018年4月6日、関東以外では初めてとなる英語や理数教育、IT教育に重点をおいたインド式教育のCBSEカリキュラムに基づく国際学校「CHANDRA SEKHAR ACADEMY INTERNATIONAL SCHOOL, KYOTO」（チャンドラ・セカール・アカデミー・インターナショナルスクール京都校、以下CSAISとする。）を、伝統文化と美しい自然が魅力的な京都市で創立した。開校式には、在大阪・神戸インド総領事館 T. アムストロング チャングサン 総領事、門川大作 京都市長、京都市議会議員、公益財団法人日印協会の関係者など約100名のご来賓の皆さまにご列席いただき、華やかな式典となった。



## 2. インドの教育制度について

インドの教育制度は、日本とは大きく違っている。州によって若干の差はあるが、小学生は5歳からで、5・3・2・2制。（日本では、6・3・3制。）義務教育は8年生までとなるが、小学生でも成績が悪ければ落第をしてしまう。その反面、成績が良ければ、飛び級もすることができる。このような厳しい環境のなか、優秀な人材が輩出されていくのである。

インドの公立学校は一般的にヒンディー語やその州で使われている公用語で授業を進めているが、私立学校では英語による授業が行われていることもあり、子供を私立学校に通わせる親が増えている。

## 3. インド式教育について

インドは世界屈指のIT立国であり、グーグル、マイクロソフト、ソフトバンクなど名だたる大手IT企業でインド出身者が活躍している。そのIT技術者を生み出している教育として、インド式教育は日本でも注目されている。インド式教育の特徴は、九九の暗算がよく知られているが、英語などの語学や理数だけでなく、IT教育も授業に取り入れられていることにある。例えばCSAISでは、小学校1年生から、1週間の授業時間のうち、語学15時限（英語・ヒンディー語・日本語）、算数5時限、IT2時限をおこなっており、まさしく英語や数学、ITに強くなる教育法であるといえる。

## 4. インド式教育国際学校「CSAIS」の本校「CSA」について

インドの大都市では近代化が進んでいる一方で、東インドのオディッサ州プリーではまだまだ一般の人々の生活は困窮し、子供たちの教育よりも労働を優先するため、就学率が低くなっている。私はこのような状況の子供たちが一人でも多く学校に行けるように支援するため、2004年、プリーに日本語教育と日本文化やマナーを日本語・英語・ヒンディー語で授業を教える幼稚園から高校までの一貫教育を行う学校「CHANDRA SEKHAR ACADEMY」（チャンドラ・セカール・アカデミー、以下CSAとする。）を設立した。この学校の特徴として、英語教育の中に日本語と日本文化も取り入れている。CSAは開校当初、幼稚園から小学校までであったが、2016年、高校の認可を取得、2018年現在、幼稚園から高校生まで約350名が通っている。また毎年、日本の大学生や社会人が、インターシップでCSAの子供たちに日本文化（折り紙や着物の着付け、踊りや音楽）を教えるほか、学校の敷地内で日本の農業について指導を行うなど、インドにしながら日本を体験できる生きた文化交流をおこなっている。また、日本からのインターシップ生にはインド文化（ヨガ、イ



インド古典楽器シタール・タブラ、インド古典舞踊)を体験してもらうことで、インターンシップを通じて、両国の文化交流をおこなっている。これらの取り組みを通して、将来、この学校の生徒が日本の大学に留学することや日系企業に就職することにつながるよう考えられている。このたび京都で開校した CSAIS は、この学校の姉妹校である。



## 5. CSAIS 開校趣旨

現在、日本では世界各国から多数の外国人留学生と労働者を迎え、徐々にその家族も留学生として日本に居住するようになってきている。しかしながら、その大半は日本語や日本の文化・マナーを学ぶことなく、日本に馴染めないまま母国に帰ってしまうという現実がある。その背景にあるのが高額なインターナショナルスクールの授業料である。日本に働きに来られた優秀な外国人の方々も、子どもを学校に通わせることができなければ、祖国へ帰らざるを得ない。

そこで、日本にいる幅広い層の外国人家庭の子どもたちが通いやすいインターナショナルスクールをつくり、日本と海外の架け橋になる人材を育成していきたいと願い、学校開校に向け動きはじめた。京都市からの支援もあり手頃な授業料で良質な英語による教育を提供することの出来るこの学校を通じて、日本文化、京都文化を理解し、日本を愛してくれる海外の子どもたちが増えて欲しいと願っている。

日本の教育と教員は素晴らしいが、海外から来日したばかりの外国人家庭の子どもたちが、日本語や日本の文化を学ぶには多大な時間を要する。日本の学校で教員からの良質なサポートがあっても、外国人の保護者が日本語や日本文化を理解できないため、子どもの教育が適切にできていない状況にある。私はこのような来日したばかりの子どもたちに、日本語・日本文化・日本のマナーを教えることで、将来、日本の学校に通いやすい教育環境を整えていきたいと思っている。

よりよい教育環境を整えることは、現在、日本企業で働いている外国人が、日本での勤務を継続することにつながり、日本企業も優秀な人材を確保できる。子どもたちが長く日本で暮らし、将来、日本の大学に進学すれば、少子化に悩む大学も学生数が増加し、日本経済の活性化にも寄与する。本校の設立により、企業の京都転入にもつながり、また日本で働き日本で住みたいと思う外国人が増え、日本の持つ技術・街並み・人間性などの素晴らしさをPRすることができる。

今回、インターナショナルスクールを開校する京都は、私にとって日本文化の真髄に触れられる最も憧れる都市の一つである。長い歴史が生み出した文化遺産や伝統文化が今も息づいており、まちの三方を囲む山々や街中を流れるきれいな川など、美しい自然が魅力的だ。

また、京都市は「世界文化自由都市宣言」(＝「全世界の人々が、人権、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、自由につどい、自由な文化交流を行う」)を都市の理想として示しており、私は学校

をつくる場所として京都市が最もふさわしい場所であると考え、伏見区向島で創立。

まずは小学校から本校「CSA」のカリキュラムに沿ったスクールを開校した。

## 6. CSAIS について

CSAIS では、インド発祥のヨガと瞑想を毎日、朝礼・終礼時に取り入れ、心の安定をはかっている。全ての授業を英語で行うことで幼児期及び小学校期（以下、幼児童期と略す）における英語力の育成を図る。日本国内で英語教育を重視する学校は増加傾向にあるが、本校は、インドで開発され発展した国際人育成に実績のある CBSE カリキュラムを取り入れることで、英語教育の実践的な学習活動を行う。また早期から重点的 ICT 教育「Information and Communication Technology（インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー）」（情報通信技術）を実施することにより、高い ICT 技術も兼ね備えた人材の育成を図り、国際人を育成するとともに、自国の文化と日本文化を愛し、礼儀作法を大切にする文化人の育成を目指す。

加えて音楽・料理・ヨガなどの交流イベントを通じて、向島地域の学校、住民、外国人との積極的な交流を行うことを目的としており、すでに4月開校以来、以下の交流事業をおこなっている。

(1) 2018年6月15日

向島地域の公立小学校にて小学校6年生の国際教育の授業として、インド古典音楽公演とヨガ、日印教育講演会をおこなう。

(2) 6月16日

CSAISにて日印文化交流事業『ONE DAY INDO-FEST!』の一環としヨガ・インド古典音楽公演・インドの食・日印講演会を開催。

(3) 6月17日

地域交流イベント『第1回たんぼラグビーin京都・向島』でインド古典音楽公演を開催。

(4) 6月21日

国連制定『国際ヨガデー』CSAISでヨガイベントを開催。

(5) 6月24日

地域の公園において開催されたバザーでヨガイベント開催。



世界の子ども達がともに学びともに生活し、「世界はひとつ」を合言葉に地球人としての自覚を持つことで、お互いの国に対する理解を深め、思いやりを育てる。そして誰しもが自分の中に持つ、世界のためにできることの「志」の実現に向けてサポートしたいと考えており、そのために日本の志教育を導入するとともに、インド・オディシャ州プリーの CSA が培ってきたインド教育のノウハウを存分に活かし、新たなカタチの国際学校を設立するとともに、向島地域・京都・日本の活性化へとつなげていきたいと思っている。

関西地域で唯一のインド式国際教育学校として誕生した CSAIS だが、今後予想される、多様なニーズの子どもたちを受け入れていき、インド式教育に基づく教育活動により、世界で活躍する国際競争力を育てることはもちろんのこと、インド文化と日本文化を理解する、優れた人材の育成をめざし、それぞれの進路希望の実現を図っていきたい。

「CBSE カリキュラム」※CBSE とは、Central Board of Secondary Education の略である。

インドの教育システムで International Curriculum。子供たち自身が新しい発想を生み出す力を養うことを目的とし、プロフェッショナルとソーシャルスキルを獲得する上で最も重要な役割を果たす。人生の課題に対しての積極的な姿勢を学ぶ幼稚園から高校までのカリキュラム。世界で最も優れた教育制度とも言われ、インド全土にある CBSE スクールを含む約 8,500 校以上、世界 23 カ国 150 校で使われており、約 800 万人の生徒がカリキュラムに沿って学んでいる。

「CHANDRA SEKHAR ACADEMY INTERNATIONAL SCHOOL, KYOTO」

(チャンドラ・セカール・アカデミー・インターナショナルスクール京都校)

〒612-8133 京都市伏見区向島鷹場町 104-1 向島セミナーハウス 3 階

※近鉄京都線 向島駅(むかいじま) 徒歩約 15 分

Tel & Fax: 075-644-7333 Mail: csa.is.kyoto@gmail.com

Web: <http://www.chandrasedharacademy.com/kyoto.html>

facebook: <https://www.facebook.com/csa.is.kyoto/>



(理事長) クンナ・ダッシュ。インド東部のオディシャ州プリー市生まれ (1969 年)。

京都国際観光大使を務めている。1952 年に父が始めたゲストハウス(サンタナ: 現インド・サンタナグループ)で日本人客との交流を通じて日本に関心を持ち、日本語を独学で学び来日。2002 年にインド日本友の会を設立。

(運営法人) NPO 法人「インド日本友の会」

インド国民と日本国民とが交流事業を通し相互理解と友好親善を推進し、社会全体の幸福の増進に寄与することを目的として、日本在住インド人に日本での生活のサポートやインドに興味のある日本人にインド留学・会社設立についての相談やインドでの生活におけるアドバイスなど、お互いの国で楽しく過ごせるためのサポートをしている。また、インドと日本双方の友好を深めることを目的とした様々な教育・文化交流事業を実施。

(本部) 和歌山県和歌山市屋形町 3-24 (Mail) ij\_fc@yahoo.co.jp